

NPO法人 Sakura Japan

TEL： 090-7850-4081

木内式太陽光集光炭素化炉

活動実績

運命学と星占い/法人概要

署名/お問い合わせ

ホーム > 木内式太陽光集光炭素化炉

天からの恵み太陽光

地球を浄化するエネルギー革命

提言

「木内式太陽光集光炭素化炉」は
「原発に匹敵する発電量ができる」しかも
「高電力、低コスト、CO2 排出しないエネルギー革命装置」

現在、世界中の電力供給源となっているのは石油、石炭、天然ガスなどであり化石燃料に依存している。これらは電力に転換する際、大量の二酸化炭素を排出するため急速な地球温暖化の原因になっている。

人類のエネルギー問題は深刻だ！

進まぬ対策に国連が警告（2014年11月）

国連気候変動に関する政府間パネルIPCCの800人以上の専門家が“今のまま二酸化炭素を排出し続けると30年足らずで許容量の上限に達してしまう”と警告している！国連は現在のCO2排出量がこのまま続いた場合、平均温度最大4.8度上昇、海面水位最大82cm上昇と発表。“地球に次の世代は存在しない。地球が持ちこたえられない”と警告するが解決策はない。

二酸化炭素気候変動否定論者もいますが、二酸化炭素の排出削減は人類共通の緊急課題だ！

在来型の化石燃料や原発に匹敵する発電量と
二酸化炭素の排出削減効果のある代替エネルギーが必要だ！

これが「木内式太陽光集光炭素化炉」と「木内式炭素蓄電池」だ！

二つの提案

提案1 「木内式太陽光集光炭素化炉」

提案2 「木内式炭素蓄電池」

提案1「木内式太陽光集光炭素化炉」

木内式太陽光集光炭素化炉（以下炭素炉）はCO2 排出せず、高電力、低コストでエネルギー革命を起こす歴史を変える発明だ！

炭素化炉は太陽光を使用すると同時にゴミを有効利用する発電エネルギーシステム。

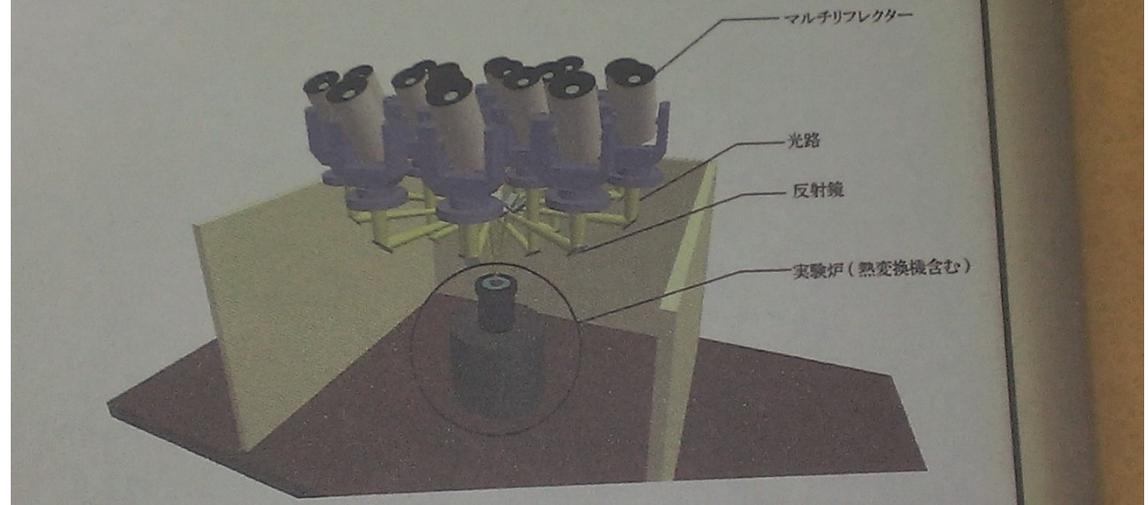
炭素化炉は木内氏が2008年に国際特許取得。

この装置には国立天文台野辺山のパラボラアンテナを創設した森本雅樹氏（東京大学名誉教授）やJAXA（宇宙開発事業団）ロケット設計技術者が協力して開発している。

炭素化炉の役割

- 1、発電
- 2、廃棄物処理
- 3、ゴミの再資源化
- 4、炭素電池

実験プラント装置図



炭素化炉の特徴

- 1、太陽光の有効利用
- 2、発電量は原発に匹敵する
- 3、燃料費がかからない
- 4、既存の発電設備を利用できる
- 5、処理の際、二酸化炭素を排出しない
- 6、ゴミの有効利用・・・物質を分離して有効資源にできる
- 7、炭素電池が作れる

炭素化炉はマルチリフレクター4m（凹面鏡）で大量の太陽光を集光する。ズームレンズを光路上に配置し、温度を設定。反射鏡で炉の中に太陽光を直接入れ電気変換装置で太陽光を熱エネルギーに変換。この装置の発電量は原発に匹敵するほどの大容量。しかも燃料費がかからない。

更に、本装置は既存の発電設備などでも利用出来る。従来型の燃焼炉と違い、炉内で燃焼を起こさず処理が出来る為、二酸化炭素を排出しない。（燃焼は酸素と結合するため二酸化炭素を発生。炭素化炉は通常1500℃前後に保たれ、有害物質が発生しない。）

またズームレンズを使用して温度も自在にコントロール出来る為、物質を温度別に分離して有効資源として再利用が可能。

（例1） 廃プラスチック、廃タイヤや一般ゴミが再び資源として有効活用できる。廃プラスチックはナフサ（プラスチック等の石油化学製品の原料）に戻すことができ、ガソリンや他の石油化学製品へ再生可能。（現在は原油を蒸留してナフサを製造している。）

（例2） 廃タイヤはグラファイト（カーボン）等が大量に再生産できる。（F1の車体・航空機の機体で使用等）

事業化の一例

[廃プラスチック製品再油化の事業化]

1日144t（廃プラスチック）×0.8（廃プラスチックから採取される石油の量を元の最大の80%とする）×年間260日（晴れ日）×約30,000円（石油単価）＝約8.9億円

廃プラスチックの再油化の技術は以前からあったが、燃料費が高く採算ができませんでした。炭素化炉の場合は太陽光を利用するため燃料費がかかりません。

● 提案2「木内式炭素蓄電池」

炭素化炉からはとてつもない発電量の多孔体炭素蓄電池（以下炭素蓄電池）ができる。炭素化炉に一般廃棄物を入れると炭素が得られる。炭は電気を蓄えられ、炭素化炉で発電した電気をこの蓄電池にいれれば高純度の炭素蓄電池を安価に製造できる。この炭素蓄電池がペットボトル1リットルの量あれば家庭で使用する電気が5年間もつ。家電製品の冷蔵庫や洗濯機などに炭素蓄電池を設置すれば家庭内で配線は不要！コー

ドは必要なく停電もありません！この炭素蓄電池が社会に普及すれば電線がいらない社会ができます。車においてはリチウムイオン電池やレアメタルなどは必要とせず、約5年間走ることができる。燃料費がかからない車が完成。炭素蓄電池は充電して再利用できます。

📌 日本の発電と問題点

日本では主に火力、水力、原子力によって電気を供給している。原子力発電は停止中（2014年9月現在）。福島原発事故では放射能汚染水は未だ垂れ流し状態。放射線廃棄物は10万年間の管理が必要。

火力発電（石油、石炭、天然ガス等の化石燃料を使用）は全体の約90.6%を占める。これはCO2を排出する。水力発電は全体の約9.0%を占める。これは森林を伐採しなければならず自然を破壊が問題。グリーンエネルギーは全体の約0.3%を占め、国民負担は一人年間2万5千円。現在のグリーンエネルギーの代表格はソーラーパネルですが、炭素化炉と比べると発電量に違いがある。ソーラーパネルの場合、平面鏡のため太陽のわずかな光の量しか受けられない。平面鏡一つ一つに光が当たると一個の電子、つまり1ボルトの電子しか流れない。その為メガソーラーの様に大量のパネル面積が必要。その反面、炭素化炉は望遠鏡の原理を用いて太陽光を集光するため太陽全体の光が集まり、膨大な熱エネルギーに変換が可能。虫眼鏡で紙に火を燃やす仕組み。

📌 各種発電量と建設費の比較

「木内式炭素化炉」
一日の発電量: 111 GW
建設コスト: 約15億円（大型炭素化炉は約40億）

「福島原発一基分」
一日の発電量: 112.8 GW
建設コスト: 約5000億円

「メガソーラーパネル
（宮古島市メガソーラー）」
一日の発電量: 12 MW
建設コスト: 約50億円

木内式炭素化炉は福島原発一基分と同等。
今後の研究次第では更に大容量電力効果が期待できる。

📌 代替エネルギー実現に向けて

今まで代替エネルギーを世界中の科学者が研究開発している。
木内式炭素化炉は6年も前に特許を取っているが大手企業にも相手にされてない？

→1) 技術的に何か問題があるのか？
→2) 何処からか圧力があるのか？

1) 技術的に何か問題があるのでは？

●炭素化炉は、小型実験炉で各種実験データを集積している為、あとは大規模炭素化炉を製造して確認する作業だけです。JAXA（宇宙開発事業団）ロケット設計技術者が協賛し実現を目指している。

●2013年7月サンフランシスコで北米最大のソーラー技術専門見本市開催にJETROの協力のもと、「木内式太陽光炭素化炉」出店。 <https://www.facebook.com/forumsora>

●ドイツで木内式炭素化炉に近い装置で実験をしたところ太陽光で原発20基分、2200万kwの発電量実験に成功。（下記新聞抜粋参照 東京新聞2012年6月20日付）
ドイツでの実験はまだ太陽光にレンズを直接向けずに自然光でやっている。
それでもメガソーラーの40倍の発電量で、福島原発一基分よりも発電量が多い。
ソーラーパネルの発電量の2乗に正比例する発電量。

しかし、効果が有り過ぎて利権勢力にやらしてもらえない？
(木内氏談)

2) 何処からか圧力があるのか？

●JOGMEC(*1)の特別顧問石井晃氏は「世界のGDPは年間約65兆ドル(2011年)、エネルギー産業の売り上げ規模は、その約1割、6兆ドル(約600兆円)と推定される。今後23年でエネルギー投資は、38兆ドル(3800兆円)程度と推定される」と言及。2011年10月号「ガスエネルギー新聞」Vol.16(*1)JOGMEC=独立行政石油・天然ガス・金属鉱物資源機構

●アメリカのジャーナリストは「このキャッシュの流れを変えることは極めて考えにくい。ファンド・化石燃料・原発等の利権ロビイストは巨大な権力と資金で政治、経済、メディアに強い影響を与えている。クリーンエネルギー産業に移行するのは極めて難しい」と言及。

●2009年中国で日本から頼まれた中国人に、木内氏暗殺未遂事件発生。頼まれた中国人は捕まる。

●2011年4月MTV宮古テレビで宮古島での炭素化炉の実験着工が報道された。その後3年間まったが経産省が許可を出さない。

なぜか？

「原発専門家の二人の発言」

吉岡斉氏(九州大学教授元副学長、元政府原発事故調査委員会委員)は「経産省主導の政策決定の仕組みの廃止」を言及。経産省の政策決定は経産省が電力やメーカーの都合を聞き、原子力関係者の都合のいいように作られる。エネルギー基本計画については原発事故前の計画とほぼ同じであり、(組織自体)変わる能力がない！」と発言。

田中伸男氏(IEA国際エネルギー機関 前事務局長 日本エネルギー経済研究所特別顧問《旧通産省出身》東大教授)は「後輩達の経産省での思考停止は心配している。決定するのは政治。政治の顔色を伺いながら仕事をしている。もっとプロフェッショナルな毅然とした発言が必要」と発言。(2014年11月26日BSテレビ・プライムニュース報道)

この事でも経産省が許可を出さない原因を推察できる。

既得権益の壁！

【ベルリン＝弓削雅人】ドイツの太陽光発電量が、五月二十五、二十六日に原発二十基分に相当する過去最高の二千二百万キロワットを記録したことが、同国の再生可能エネルギー研究所（IWR）の調べで分かった。好天の影響だが、同研究所のアルノッホ所長は「過去にこれほどの太陽光発電をした国はない」と指摘している。

欧米メディアが伝え、福島第一原発事故を受け、二〇二二年までに国内十七基の原発を全廃する脱原発政策を決定。再生エネの電力比率も、現在の約20%から二〇二〇年に35%まで引き上げる計画だ。太陽光発電の能力も昨年までの二年間で約千五百万キロワット増加し、計二千五百万キロワットとしている。

ドイツは、東京電力

太陽光で原発20基分

ドイツ過去最高2200万キロワット発電

利益還元について

炭素化炉実現に向けて、私たちはこの組織を公益NGO・NPOで運営します。これは炭素化炉をマネーゲームの道具しないためです。炭素化炉の収益は地球の環境を整える産業構造へ還元します。

株式会社の場合、純利益のうち約5割が法人税の支払い、残り8割が株主配当金。つまり純利益10億円の場合、5億円は法人税、残りの8割の4億円が株主、残り1億が内部留保です。

公益NGO・NPOの場合は収益のうち25.5%が税金、その他は、顧客、取引先、従業員、地域社会に利益還元します。株主配当金はありません。

木内氏は利益を地球の環境を整える産業構造へ還元します。

木内鶴彦氏プロフィール



1954年長野県生まれ。彗星探索家

三つの彗星を発見し名前が付いている。

更に世界中の天文学者が130年間探していた小惑星「スウィフト・タートル彗星」を再発見。1993年9月 国際天文連合より「スウィフト・タートル彗星再発見の偉業を認められ小惑星に「KIUCHI」と命名される。この小惑星は次回の周期、135年後（2126年）地球に衝突する可能性が高いと世界中のニュースになり、ハリウッドで映画化「アルマゲドン」「ディープインパルス」。

1994年12月「将来世代フォーラム」で世界64か国代表の前で「彗星が地球に与える影響」について講演。この会議での木内氏の提案がきっかけとなり現在16ヶ国で宇宙ステーションの建設を行っている。ノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊氏に招かれ、岐阜県ニュートリノ観測施設のカミオカカンデンで講演。

3度の臨死体験者で「証言・臨死体験」立花隆氏（著書）で取り上げられる。

現在多数の講演で活動中。

📌 最後に

炭素化炉は化石燃料や原発に頼らずにエネルギー問題、ゴミ処理問題、環境問題を解決する画期的なエネルギー発電システムです。

この地球浄化・人類救済の技術を日本から世に出す事は木内氏の強い意志です。

今後世界のエネルギー産業は約38兆ドルと見込まれます。
既存のエネルギー発電を10%でも木内式炭素化炉に変換すれば380兆円に上る。

私たちは地球浄化・個人の幸せ・次世代の希望に貢献するため今後30年の間に炭素化炉を最低でも1%変換し、この技術を次世代に伝えることを目標としています。

炭素化炉の実現で地球規模の政治・経済・産業システムが変わります。価値観が大きく変化し循環型社会が実現します。

📌 皆様へ

今NPO法人Sakura Japanでは木内式炭素化炉を世界の隅々まで伝える使命を感じ行動しています。

炭素化炉実現に向け当理念にご賛同いただける個人及び法人の方からの協力金を求めています。

本装置は大量生産が可能です。
投資家（利益は少ない）・共同開発事業社・協力者・支援者を求めています。
この産業をあらゆる人々の手で世界規模に育てることは、地球救済・個人の幸せ・次の世代の為です。

今、世界で一番必要な技術です。
更には日本の現在の産業経済の飛躍の為。

ご協力の程よろしくお願い致します。

株式会社ゆうちょ銀行

同士の振込口座
記号 10120 番号48445471

他金融機関からの振込
振込口座 店名018 店番 018
普通預金 4844547 名前 サクラ ジャパン

〒158-0097
東京都世田谷区用賀3-25-33ベルアール用賀101

以上

一部抜粋

「らくらく5次元ライフのはじまりはじまり」
木内鶴彦×中丸薫 ヒカルランド出版社

「生き方は星空が教えてくれる」
「臨死体験」が教えてくれた宇宙の仕組み」
木内鶴彦著 サンマーク出版

参考資料

「あの世飛行士あの世飛行士 未来への心躍るデスサーフィン」
木内鶴彦×保江邦男 ヒカルランド
「資本主義の終焉と歴史の危機」水野和夫著 集英社新書
「新しい資本主義」原丈二著 PHP新書
「ブルーエコノミーに変えよう」
グンターパウリ著 ダイヤモンド社

[▲ PAGE TOP](#)